

第2学年 生活科学習指導計画

橋本市立三石小学校

指導者 寺本 成希

1 単元名

生きものとなかよし

2 単元の目標

生き物の飼育を通して、それらの生態や成長の様子等に気づき、生き物への親しみをもつとともに生命を大事にすることができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の中ではどのような状態にあったか調べたり、動植物の好む環境を作ったりして、適切にかかわることができる。	生き物を観察し、聞いたことや学んだことを分かりやすく伝えるために工夫したり、表現したりすることができる。	生き物のことを考えて、環境に積極的に働きかけたり、自分と身近な環境とのかかわりを見通したりすることができる。

4 教材について

多くの子どもは、ふだんから学校農園や学校ビオトープの動植物とかかわり、生き物への親しみを感じている。しかし、生き物の生命や生育環境を考えたり、責任をもって飼育したりする経験は少ない。そこで、学校農園や学校ビオトープなど、身近な自然の中で生息している生き物を観察する。そして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、調べていきたい。

5 児童について

最近の児童は生き物と触れ合う機会が減ってきているように感じる。また、この地域では自然が少なく、生き物と触れ合う経験がほとんどないというのが現状である。そこで生き物を調べたり、触ったりと触れ合う中で命の尊さを学ばせたい。

6 指導について

直接生き物と触れ合い、また観察することで身の回りの自然に触れさせる。情報交換の場を工夫して、地域の人や先生に質問したり、教えてもらったりすることで、様々な人との触れ合いを通じて学び、そして友達のよさに学びつつ自分らしさを表現できるようにするとともに、活動後の片付けや手洗いなど、自ら安全や衛生に気を付けて生活できるようにする。

7 ESD の観点

【身につけさせたい観点】

相互性…生き物と生き物の関わり合いから身につける。

連携性…グループ活動、地域の人との関わりを通して身につける。

多様性…多種多様な生物が身の回りには住んでいるということを調べていく中で身につける。

【養いたい能力】

コミュニケーション力…いろんな人との関わりの中で養う。

8 単元展開の概要

	主な活動	学習への支援	◇評価・備考
	<p>学校にいる生き物を探し、生き物マップを作ろう。</p> <p>学校にいる生き物を見つける。</p> <p>生き物の絵とそれがいる場所について、はがきサイズの画用紙にかく。</p> <p>どこにどのような生き物があるか発表し、学校の地図にはって、生き物マップを作る。</p> <p>気づいたことや感想を話し合う。</p>	<p>事前に校内及び地域の生き物を調査し、必要に応じて、情報提供をする。</p> <p>見つけた生き物を写真で撮っておき、後で見直せるようにする。</p>	<p>・生き物への関心を持ち、情報を収集して、生き物を探し、マップを作ろうとしている。 (関心・意欲)</p> <p>生き物が自然の中でどのように過ごしているか観察できる。 (知識・技能)</p>
	<p>疑問に思ったことや気付いたことを詳しい講師の先生や、学校の先生に質問をする。</p>	<p>グループでの活動が中心となるので、各グループの進行状況を確認しつつ、支援を行う。</p>	

	<p>聞いたことや調べたことをグループでまとめ、ほかの人にわかりやすく伝えるための工夫を考える。</p>		<p>自分たちで考えをまとめ、より分かりやすくつたえるための工夫をすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
	<p>生き物発表会をしよう。</p> <p>生き物発表会の計画を立て、発表する。</p> <p>自分たちの今後のかかわり方考える。</p>	<p>学習の当初と比べ、生き物とのかかわりの深まりを認め、自分の成長を意識できるように助言する。</p> <p>学習をふりかえらせ、自分たちに今後、できることを考えさせる。</p>	<p>生き物の様子やひみつを自分なりの表現方法で表すことができる。(思考・表現)</p> <p>生き物のことを考えて、環境に働きかけることができる。(主体的に取り組む態度)</p>

9 関連項目

季節と環境（4年）で、身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもてるようにする。

動物の誕生（5年）で、魚を育てたり人の発生について資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生き物を調べ、動物の発生や成長について考えをもてるようにする。